

歌壇

大下一真選

特選

著者曰く「九十歳何がめでたい」そう言えることそれがめでたい

キラキラと港も街も人々もゆれて愉しき香港今なし

千石 菊地 正矩

春日 高木 悦子

下駄箱に片付けられぬ下駄のあり微かに残る夫の足形

向丘 高野 伸子

入選

鳩達が周り飛び交う老人の手提げにパンの耳見え隠れ

千駄木 上杉 紀世子

小雨ふる朝の庭に咲き盛り白さ際立つヤマボウシの花

本郷 結城 淑子

ご近所のおすそ分けなる朝顔に今朝も「おはよう」挨拶交す

小日向 内野 仙也

靖国にこうべ垂れたる白髪女いまだ癒えずとひぐらしが鳴く

本郷 高木 洋祐

花うばら憂い心に挿す夜は夢に出で来よ遠き日の君

大塚 小出 風沙子

一息でやってくれるの有り難う 言われたからにや後に引けない

白山 長濱 直

二年半かけた自分史読み返したったこれだけか我人生は

白山 長濱 晴子

俳壇

松澤 雅世 選

特選

傍らの影と語らうきよの月

千石 菊地 正矩

手で掬ふ水の旨さや盆帰省

千駄木 仲 綾子

秋の夜に目覚めて首の細きなり

本郷 町田 菊男

入選

山の端につかずはなれず秋の雲

千駄木 江川 盾雄

千本の樹木の吐息秋の声

大塚 奥山 興悦

二胡の音か余韻の染みる養花天

本駒込 関口 けい子

走り萩風を待たずに乱れをり

後楽 高島 弘子

柿切株五千余年を語り継ぐ

西片 中島 多津子

ざくろ裂けとくに饒舌手話の指

向丘 丸岡 正児

アンタレス銀杏落ちる小さな音

本駒込 横塚 敏子